

意欲を活かして 自立支援

蕨施設サービス部 2階



Mさん

76歳

主な病歴

発達障害(2歳頃～)

不眠症

困ったこと

自閉症や発達障害の症状として、理解して行動に移すまでに時間がかかることや、こだわりが強い。

⇒ **自宅では、朝出したご飯を見つめたまま夕方まで食べずにいることも…**

夜間は大声を出して寝付けなかったこともあった。

そして、食事が課題に—

- ・食べ始めれば早いのに、食べ始めるまで時間がかかる。
- ・食事に集中できる環境を整えたり、声掛けしたりするも食べるのに**毎回 2 時間かかってしまう。**
- ・1口目を食べさせてあげれば自分で食べ…そのうち自分で食べなくなり…

食事介助が必要になってきた

何気ない会話の中で

他者との関わりが苦手なこともあり、日中も活動が少ない日が続いていた—
元々工場で働いていたのは知っていたが、職員との普段の会話の中で、
「梱包工場」で働いていたことがわかる。

確かに、手先は器用だし、集中さえできれば能力は高いことが窺えた。
段ボールでも作ってもらって見たらどうだろう??



職人技

持ち前の器用さで、四隅をピタッと止めてくださいました。お礼を伝えると、とても嬉しそう。

自分の役割を見つけたのか、自ら「何かやろうか？」と声をかけてきてくださるようになりました。

それならばと—



大活躍

段ボール作りに加えて—
他の方の食器を下膳
食器洗い
テーブル拭き
アルコール拭きあげ

意欲が止まりません！



すると変化が・・・

頑張ってお手伝いをしてお礼を言われるとまるでこどものように喜びます。日中特に何もすることなく過ごしていたMさんにとっても活動ができ、意欲が向上しました。職員も負担が軽減する(増えることもあり)ことで変化がありました。

「食べ終わったら洗い物お願いしますね」という声掛けだけで、

普通に自分で食事を食べるようになったのです。

更に日中の活動のおかげで、夜もぐっすり眠れるように。

ご清聴ありがとうございました

施設が**暮らしを継続する**場とすると、入居する前のMさんにとっては仕事も生活の一部であり、人に認められることが生きる力になっていたのではないかと感じました。

生活の一部を切り取って改善を図るのではなく、「**意向や目的、動機づけ**」が大切だと改めて気づかされました。

もしかしたら日常の中に、意外なヒントが転がっているかもしれませんよ。